公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年12月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会①）・・1
◆富山からの情報
「探鳥会参加者を増やす取り組み」・・・・10
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・11
（2015年10月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・13
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・15
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・16
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・16

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会①）

今年度の「会員を増やすための探鳥会」は、関東ブロックと近畿ブロック所属の12支部と開催しています。2015年11月15日～2016年2月27日までの間に、計23回開催する予定です。

今月号より、随時各地の様子をご報告いたします。

表1. 2015年度会員を増やすための探鳥会日程一覧

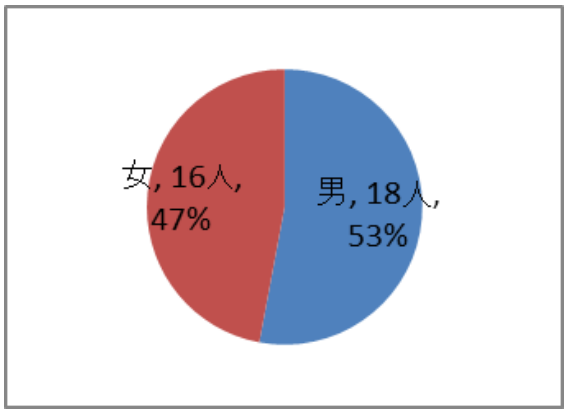
	開催日	支部名	開催場所
No1	11/15(日)	茨城県	護国神社の森(通称:桜山)
No2	11/23(祝月)	東京	代々木公園
No3		奈良支部	平城宮跡・水上池
No4	11/29(日)	東京	日比谷公園
No5		千葉県	千葉公園
No6	12/5(土)	奥多摩支部	昭和記念公園
No7		千葉県	柏の葉公園
No8		栃木	羽田沼
No9	12/6(日)	和歌山県支部	和歌山城公園
No10	12/12(土)	栃木	みかも山公園
No11	12/13(日)	埼玉	大宮公園
No12		茨城県	霞ケ浦総合公園
No13		京都支部	岡崎疎水沿い
No14	12/23(祝水)	京都支部	鴨川デルタ
No15	12/27(日)	栃木	井頭公園
No16	1/17(日)	和歌山県支部	和歌山城公園
No17	1/23(土)	栃木	那須野が原公園
No18		神奈川支部	江ノ島
No19	1/31(日)	大阪支部	服部緑地
No20		群馬	敷島公園
No21	2/13(土)	栃木	栃木県中央公園
No22	2/14(日)	神奈川支部	山下公園
No23	2/27(土)	栃木	思川河川敷

※No1茨城県での探鳥会は雨天のため中止となりました。

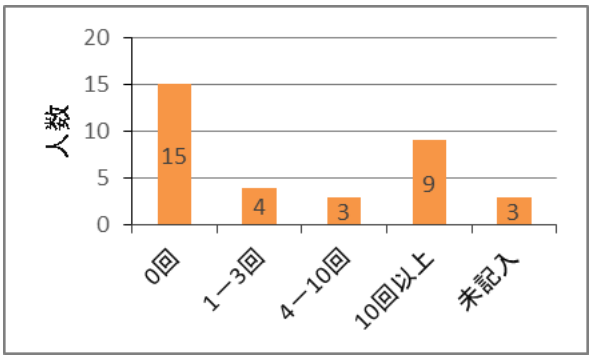
『巣箱の中をのぞいてみよう！代々木公園 巣箱かけ教室』（東京）

【日時】2015 年 11 月 23 日（月・祝）９時～12 時頃
【天候】曇り時々小雨
【場所】代々木公園
【参加人数】34 名
【リーダー】４名
【お試し入会】６名（非会員のうち２割強）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、レッツエンジョイ東京、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜支部報＞ ユリカモメ

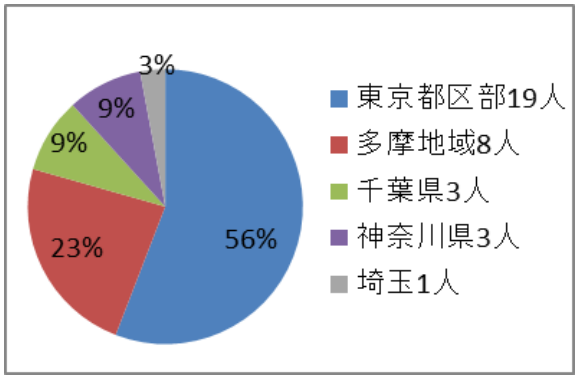
【性別】



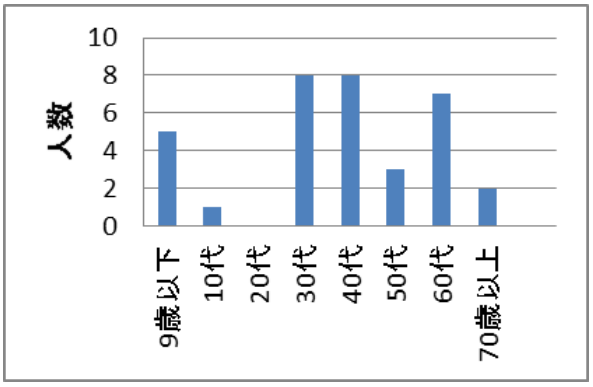
【バードウォッチングの経験回数】



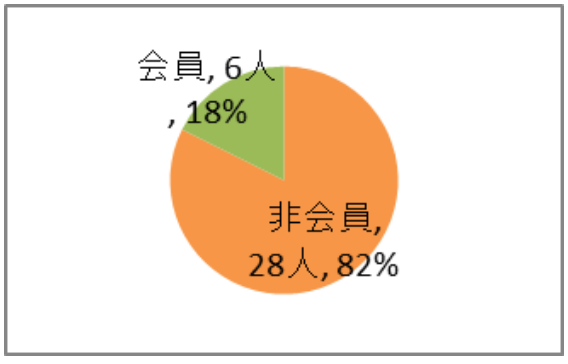
【お住まい】



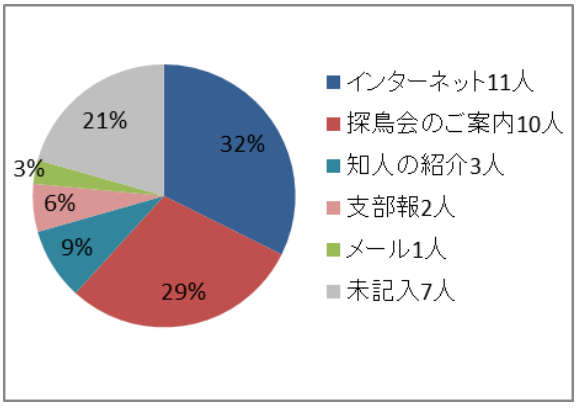
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

代々木公園は東京都渋谷区にあり、JR 原宿駅からも近く、アクセスの良い公園です。都心にあるものの、隣接した明治神宮と合わせて東京ドーム約 27 個分の森をつくっています。

今回は、管理事務所近くの林の中で木にかけてある巣箱を外し、中を観察した後、再び巣箱を設置しました。

壊れた巣箱の代わりに、新しく組み立てるグループと、巣箱を木の上から下す様子を見守るグループとに分かれ、最後に巣箱の中の様子を全員で観察しました。

参加者は、親子連れを含む 34 名で、リーダー4 名の他、探鳥会の常連の方が数名お手伝いに来ていました。

■探鳥会の様子

当日は９時に西門に集合。受付を済ませた後、管理事務所の前へ移動し、リーダーの紹介の後、巣箱の説明がありました。

「以前は春の愛鳥週間に巣箱かけをしていましたが、それでは鳥の子育てに間に合わないため、近年では秋ごろから巣箱をかけて、鳥が繁殖場所を探すときに間に合うようにしています。」

「代々木公園ではほとんどの巣箱はスズメが利用するため、今ではシジュウカラ用はかけずに入口が 3 センチのスズメ用のもののみかけています。」

私は巣箱を外すグループに参加しました。

来園者の多い公園のため、いたずら防止策として巣箱はかなり高い位置にかけてあります。そのため、脚立を登っての作業となる巣箱の撤去と設置は、支部の皆さんが担当し、参加者は巣箱が下されるのをワクワクしながら待っていました。

巣箱を下した後、巣箱の組み立てをしていたグループと合流し、全員で巣箱の中の様子を観察しました。一個ずつ中を丁寧に見て、出てきた虫なども図鑑で調べて説明してもらいました。

参加者の多くはこういったイベントが初めてだったようで、巣箱の中から虫やヤモリなどが出てくる様子を興味深く観察していました。

巣箱の一つにヤマガラが営巣し、代々木公園では初めての事だったため、リーダーからの

「向かいの大使館の庭で餌付けしているものが来ているのかもしれない。」

との説明に、

「結構色んな場所からやってくるんですね。」

と感心している様子でした。

■参加者の声

30 代女性：保育士をしているのですが、せっかく、園庭に鳥が来ても子ども達に説明ができないので、参加してみました。次回も参加したいと思っています。

30 代女性：長靴を買ったら案内が来て・・・全く初めてだったのですが、時間もあるし、ちょっと面白そうだったので参加してみました。

▲新しく作る巣箱の説明中

■まとめ

参加者の半分以上はバードウォッチング経験のないの方々で、６名ほどのお子さんの参加もありました。

巣箱を順番に下している間は少々時間を持て余しそうな雰囲気が漂いかけたのですが、それに気づいた支部の方が、公園内にあるイイギリの木の実の説明をしたり、巣材の説明をしたりと参加者を飽きさせないように空気を読んで対応していたのが印象的でした。そんな会話の中で自宅の庭に巣箱をかける事を検討している方もいました。

最後に巣箱の利用状況と中にいた生き物のまとめをしました。

その後、配布したミニミニ野鳥図鑑に挟み込んである「お試し入会」について

「ここからが重要な話」

と冗談めかして、1000 円で半年楽しめるとの説明をされていました。

「すごいお得！」

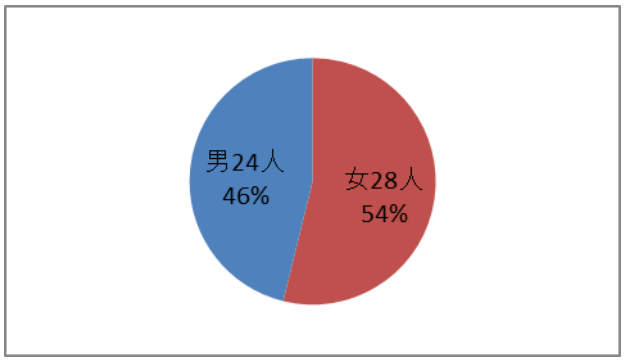
と入会されている女性を見かけたので、誘い文句の工夫も大切だと感じました。

（普及室／植木陽子）

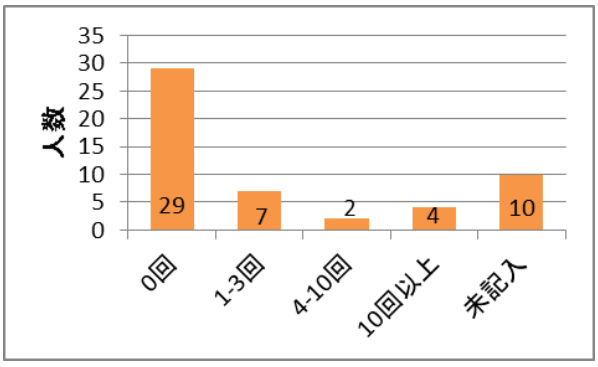
『平城宮跡・水上池で初めてのバードウォッチング』（奈良支部）

【日時】2015 年 11 月 23 日（月・祝）9 時～11 時 30 分
【天候】曇り
【場所】平城宮跡・水上池
【参加人数】52 名
【リーダー】20 名
【お試し入会】13 名（非会員のうち 3 割弱）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜新聞＞ 毎日新聞

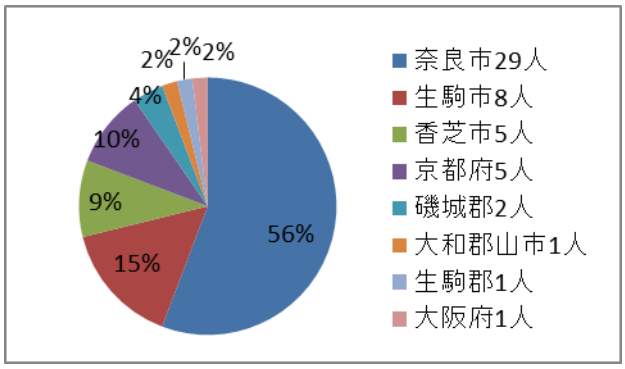
【性別】



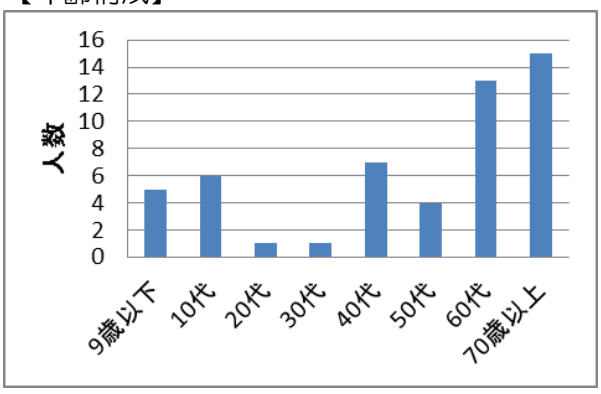
【バードウォッチングの経験回数】



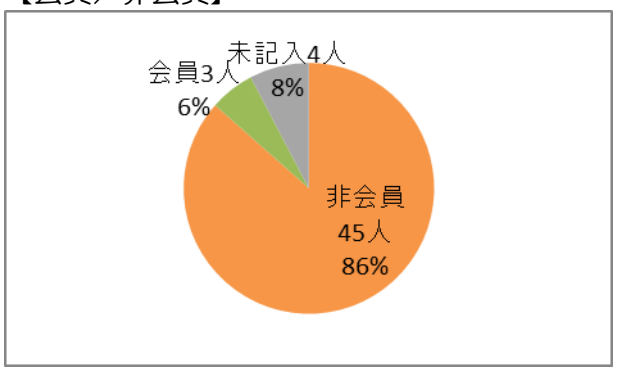
【お住まい】



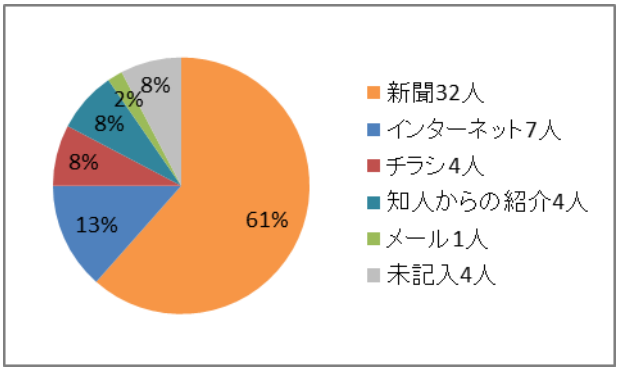
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

奈良県奈良市の西部、大小さまざまな古墳が点在する中に平城宮跡・水上池（みずかみいけ）はあります。平城宮跡は、世界遺産「古都奈良の文化財」の一つで、2010 年に開催された「平城遷都 1300 年祭」ではメイン会場にもなった交通アクセスのよい観光地です。一方で、広大な草地、水上池の水辺、人の立ち入らない御陵の森を擁し、多くの野鳥たちが繁殖や越冬のために利用する貴重な場所でもあります。

今回のコースは、水上池を反時計回りに一周するおよそ 2km 強のコースで、ゆっくりと水鳥が観察でき、初心者には絶好でした。

当日は別に準定例の「公開探鳥会」が同じコースで開催される予定でした。ところが、『初めてのバードウォッチング』参加者 52 名のほとんどが非会員の初心者であることに対応して急遽 2 つの探鳥会を一本化。

全体で約 90 名の大型探鳥会となりました。

■探鳥会の様子

曇ってはいるものの、心配していた雨の気配はなく、次々と参加者が集まってきます。

集合場所ではリーダーたちがにこやかに参加者を出迎え、名簿記入依頼や資料配布と同時に双眼鏡の貸し出しやカレンダーの販売などをテキパキと進めていました。

本来は別枠の「公開探鳥会」参加のリーダーやベテラン会員も、臨機応変に本探鳥会のリーダーとなって探鳥会がスタートしました。

初めての参加者が戸惑わないように
「このあたりの方は私についてきてください！」
と、リーダーが大きな声で誘導します。

水上池南側の道路からはオシドリや、カワウ、カンムリカイツブリなどの水鳥をはじめ、多くの野鳥が見られました。フィールドが広いので参加者はリーダーを中心にいくつものグループを作って、じっくりと観察することができました。

カワセミが現れると、あちこちの参加者から
「きれい！」
「かわいい！」
と歓声が上がりました。リーダーが瞬時にスコープにとらえて覗くように勧めてくれるので、双眼鏡に不慣れな参加者も心ゆくまで美しい翡翠色を楽しむことができたようです。

オシドリの群れを観察しているグループがあるかと思えば、こちらはセグロセキレイの歩き方の特徴を解説中、あちらでは先ほどから微動だにしないダイサギを熱心に見続けて･･･と、グループの数だけ観察内容もバラエティに富んでいましたが、様々な野鳥の観察ができるように
「あちらの望遠鏡にケリが入っていますよ」
「向こうでオオバンが観察できますよ」
と、リーダーが参加者にきめ細かく声をかけていました。

水上池北側の林の中の遊歩道では落葉した樹冠に群れるカワラヒワに遭遇。
「葉っぱだと思ったら鳥だったのね！」
との感想に参加者もリーダーも笑顔になりました。

鳥合わせで 38 種を確認。どの参加者もたくさんの野鳥と出会えた 3 時間でした。

▲水上池での観察の様子

■参加者の声

30 代女性（赤ちゃん含むお子さん４人連れ）：
上の子達にいろんな鳥を見せたくて、近所からお散歩がてらに来ました。

70 代女性：双眼鏡を持っていても使い方がわかりませんでした。今日教わってたくさんの可愛い鳥を見ることができました。

■まとめ

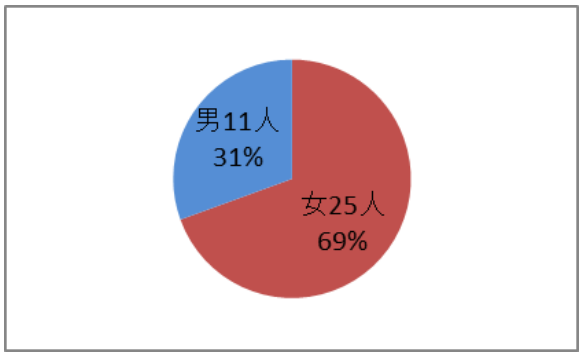
参加者の動向を見てコースを短くしたり、道路を横断する際に両側にリーダーが待機して自動車が来ないことを確認するなど、大人数の探鳥会では欠かせない参加者のとりまとめや安全への配慮が様々な場面で見られました。リーダーの皆さんの連携や臨機応変で丁寧な対応が、探鳥会の充実度をあげ、参加者の「また参加してみたい」気持ちを引き出すのだと感じました。

（普及室／浅野綾子）

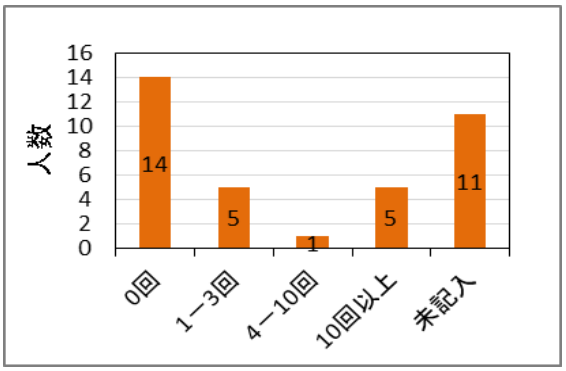
『千葉公園ビギナーズ探鳥会』（千葉県）

【日時】2015 年 11 月 29 日（日）10 時～12 時頃
【天候】晴れ
【場所】千葉公園
【参加人数】36 名
【リーダー】10 名
【お試し入会】６名（非会員のうち２割強）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜新聞＞ 地域新聞（11/20）

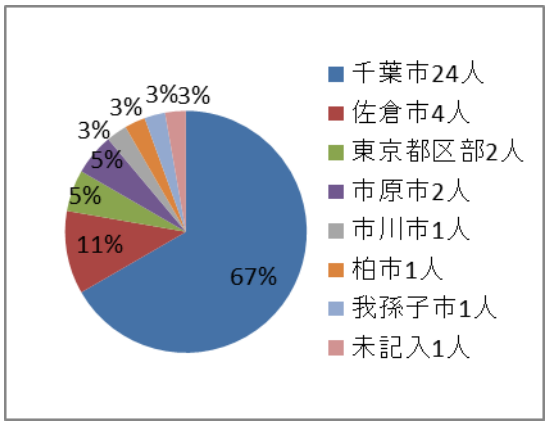
【性別】



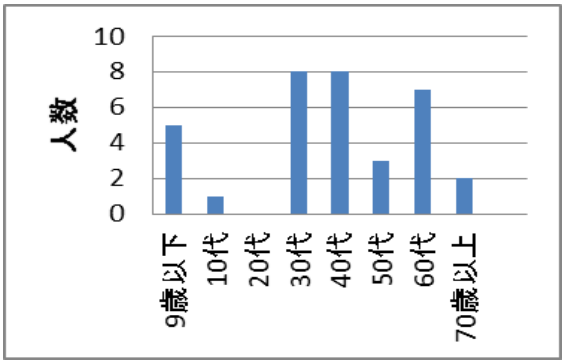
【バードウォッチングの経験回数】



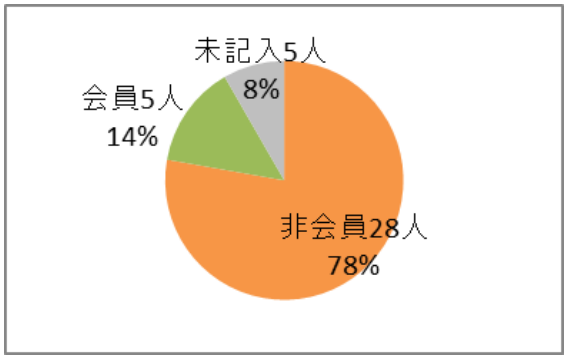
【お住まい】



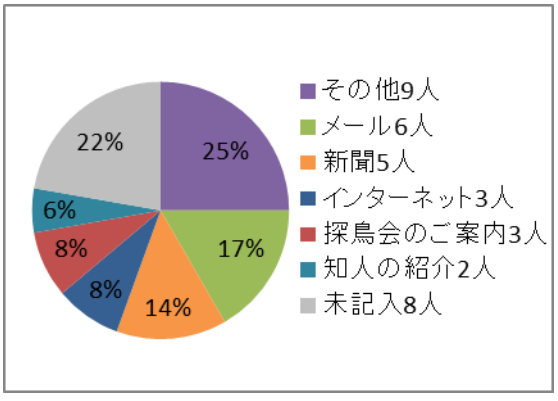
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

千葉公園は JR 千葉駅から徒歩約 10 分のところにある、周囲を住宅地に囲まれた都市型公園です。園内には池があり、この時期はカモやカモメが訪れます。

公園入り口正面にある綿打池を左回りに進みながら水辺の鳥を中心に観察し、蓮華亭、荒木山で山野の鳥を観察、再び池に沿って歩きながら公園を一周する２時間弱のコースでした。

■探鳥会の様子

空気は冷たいもののすっきりとした冬晴れの朝、10 時に JR 千葉駅東口には老若男女幅広い世代の方が集まってきました。お一人での参加からご家族での参加まで様々です。日本野鳥の会についての説明と探鳥会の趣旨、今回観察が期待できる鳥についてのお話がありました。その後、歩いて千葉公園まで移動。

公園に着くとリーダーの方々の紹介があり、双眼鏡の使い方や注意点、鳥の見つけ方について説明がありました。

まずは池にいる水鳥から観察開始。アオサギとダイサギ、コサギが並んでお出迎え。キンクロハジロやホシハジロがすぐ目の前で泳いでおり、リーダーから

「目の色に注目してみてください」

という観察ポイントのアドバイスがありました。リーダーの

「今日は気になることやわからないことは何でも聞いて下さい。」

という言葉に応えるように、参加者からは質問がたくさん出てきました。

「アオサギは英名ではグレイヘロンといって灰色なんです。」

「カンムリカイツブリは潜水して魚を追いかけて食べます。」

「波を描くように飛んでいるのがヒヨドリです。鳥によって飛び方も違います。」

「ドバトはもともとレース用に作られたものが野生化したハトです。」

とあちこちで様々な鳥の話が飛び交います。

公園内ではハトやカモに餌をまいている人がいましたが、

「野鳥に餌はやらないでください。鳥の自立を妨げたり、病気になったり太ってしまいます。池の水を汚すことにもなります。」

と、人と野鳥とのかかわり方についての話にみなさん真剣に耳を傾けていました。

荒木山という小高い丘の上に行くとカワラヒワやコゲラなどを観察しました。

▲水辺の鳥を観察中

途中、ナメクジを見つけた子供が、鳥がナメクジを食べることを知って襲われないよう草で隠してあげようとしていました。それを見たその子のお姉さんが

「でも鳥も生きていけなくなっちゃうよ」

と言っており、探鳥会を通じて鳥だけでなく様々な生き物のかかわりを感じている様子が印象的でした。

最後にお試し入会の説明があり、今回６名の参加者にご入会いただきました。

■参加者の声

70 代女性：鳥に詳しいわけではないけどいろいろな鳥がいて、それぞれが様々な動きをしているのをじっと見ているだけで楽しいし癒されます。

50 代ご夫婦：（奥様）以前、飛んでいた鳥が突然水面に向かって急降下したのを見て、面白い鳥がいるのだなと興味を持ち始めました。（ご主人）これまで池に浮かんでいるものは皆「カモ」としか認識していなかったけれど、それぞれ見た目も名前も違うことがわかると興味が出てきて面白くなりますね。

■まとめ

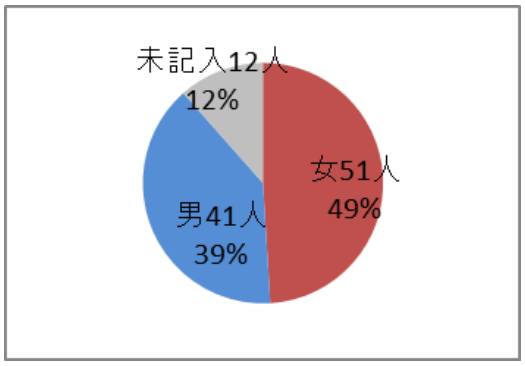
公園内の池で間近にゆっくりと水鳥を観察でき、初めての方にもわかりやすく楽しめる探鳥会でした。大人から子供まで覗くことができるよう高さの違うスコープを手早く用意したり、一人の方や分からなさそうにしている方に積極的に話しかけたりと初心者への配慮が感じられました。また、リーダーが 10 名と多かったため、参加者の様々な質問に一つ一つ丁寧に対応する姿があちこちで見受けられました。

（普及室／大久保明香）

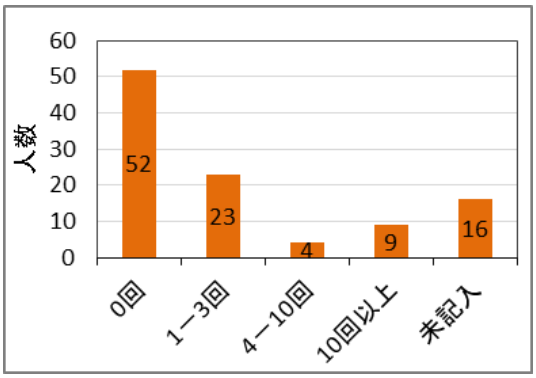
『日比谷公園とお濠でバードウォッチング』（東京）

【日時】2015 年 11 月 29 日（日）10 時～12 時頃
【天候】晴れ
【場所】日比谷公園
【参加人数】104 名
【リーダー】７名
【お試し入会】16 名（非会員のうち２割弱）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、レッツエンジョイ東京、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）

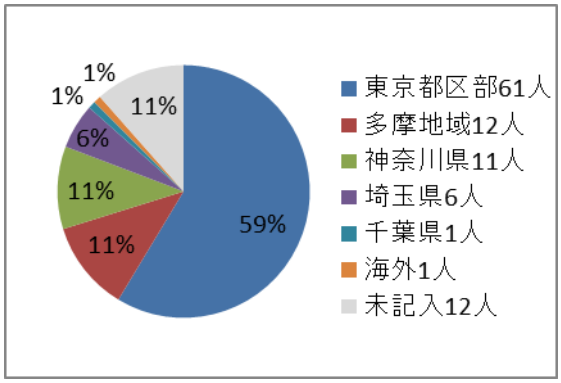
【性別】



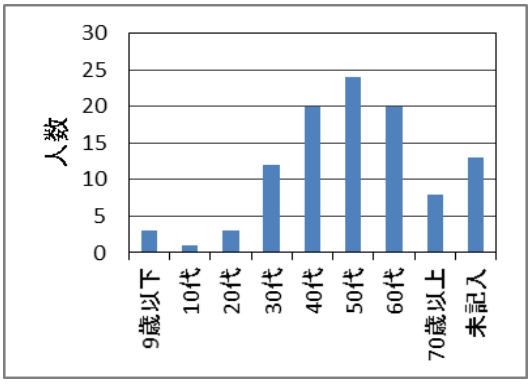
【バードウォッチングの経験回数】



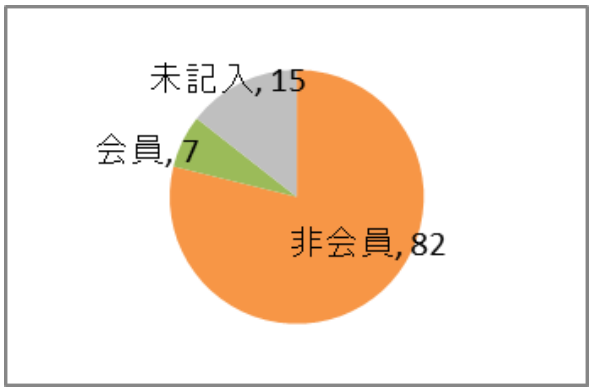
【お住まい】



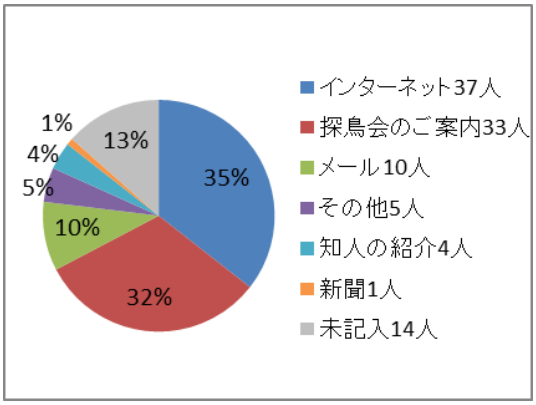
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

日比谷公園はお隣の皇居の森と合わせ、意外と知られていない鳥の楽園です。数年前からはカワセミが見られるようになり、他にもコゲラ、センダイムシクイ等の野鳥を見かけることもあるそうです。

集合地（日比谷公園の祝田門）は、最寄り駅が３つあり、いずれの駅からも近く、アクセスの良い立地でした。

参加者のうち、半数はバードウォッチングをするのは初めてという方たちで、40～60 代の割合が高い一方、30 代の参加も多くありました。

皇居のお濠と日比谷公園を巡るコースで、水辺や林、草地等で暮らす野鳥の観察を楽しみました。

■探鳥会の様子

100 名を超える参加があり、1 人のリーダーが担当する参加者が約 20 名と多くなりました。話をできる限りたくさん聞こうと、リーダーに少しでも近づこうとする参加者の姿が印象的でした。

信号機に作られたスズメの巣を観察し、街という環境に順応しているスズメについて伝えるポイントでは、興味津々に代わる代わる、望遠鏡を覗く参加者の姿が見られました。

観察した鳥は、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、ユリカモメ、セグロカモメ、コブハクチョウ、カワセミ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ドバトの 20 種類でした。

▲図鑑を使って観察中

■参加者の声

60 代女性：バードウォッチング歴は５年程です。これまで谷津干潟、多摩川等で野鳥を観察していました。今回は都心でどんな鳥が見られるのか興味があって参加しました。

40 代夫婦：スタッフから借りた双眼鏡を使ってゴイサギを観察しました。肉眼で観察するよりもくっきり見えて、すごく面白かったです。

30 代女性：双眼鏡を片手に散歩しながら鳥を観察しています。参加者が多くリーダーの方の話を聞くのが大変でしたが、お話がとても面白かったです。

▲スズメの巣を観察中

■まとめ

皇居では、自転車やランナーが通過する際や、有楽門交差点を横断する際の安全管理が重要だと感じました。

皇居から公園に移動する際、グループ間で大きな時間差が生じ、フリーのリーダーの方が、公園内でのグループ毎の動きを調整されていました。大人数になるほど、グループ数が増え、グループ間の細かな調整が必要となることを実感する探鳥会となりました。

また、公園では、普段と比べ鳥が少なかったそうですが、各リーダーが、イラストを使って解説したり、公園入口で立ちどまり耳を使うよう呼びかけたり、野鳥以外の生き物や環境の話を結びつけてする等、初心者が楽しめるよう様々な工夫をされていました。

（普及室／柴田英美）

◆富山からの情報

「探鳥会参加者を増やす取り組み」

※この原稿は、中部ブロック会議 2015 福井で報告されたものです

探鳥会への参加者を増やすため、日本野鳥の会富山として実施してきたことを発表します。

■なぜ探鳥会参加者を増やすのか

なぜ、日本野鳥の会の会員でなくて探鳥会の参加者増かといいますと、まずは一般の人が気軽に参加できる探鳥会を開催することで、野鳥に興味を持ってもらい、会のことを知ってもらい、それが入会者を増やす第一歩になると考えたからです。

我々の探鳥会は、主に第 1、第 2 日曜日は県内の各地で定例探鳥会を開催し、第 4 日曜日に呉羽山（くれはやま）探鳥会を行っています。

2007 年度の定例探鳥会の参加人数は、35 人/月平均だったのが、2012 年度に 28 人/月平均、2013 年度は 25 人/月平均と毎年減少を続けています。

私は 15 年以上、探鳥会の企画、実施をやってきましたが、当初は血気盛んで色々なことをやりましたが、年を取ると段々マンネリ化して何も対策を打たなくなってきました。これに助け舟を出してくれたのが、新しく就任した編集部長と総務副部長でした。

■リーフレットとホームページで参加者増

編集部長は 2013 年から、探鳥会の場所や日程をカラーにしたリーフレットを作成しました。そして、会員外で初めて探鳥会に参加した方に、このリーフレットと会報を渡して、会の行っている内容を知ってもらいました。

総務副部長は 2014 年から、会のホームページに「次回探鳥会のお知らせ」を設け、集合場所を地図に載せました。また、寄付金で揃えた双眼鏡とハンディ図鑑をセットにした貸し出しを始め、ホームページから予約ができるようにしました。2014 年度は 1 件でしたが、2015 年度（11 月末現在）は 12 件あり、リピーターも出てきました。その結果、探鳥会参加者は 2015 年度（11 月末現在）で 32 人/月平均になっています。

会員数については、2007 年 3 月末で 235 人が 2015 年 3 月末で 195 人となっています。退会者の理由を調べてみますと約 50%が高齢になったためと考えられました。探鳥会に出られなくなったからやめる、と、直接連絡をもらった人は何人もいました。また、いろいろな会に入っていて、断捨離をする人もいます。

しかし今回ここでご紹介した、初心者向けのリーフレット作成や、HP を使った告知、図鑑や双眼鏡の貸し出しなどを行ったことで、2014 年 3 月末から 2015 年 3 月末の会員の数は±0 でした。退会した人は 19 人でしたが、入会した人も 19 人だったのです。小さなことを積み重ねていくことで、状況は変えられると手ごたえを感じている次第です。

■今後の課題

今後は探鳥会の内容についても、初心者の方にあったものにしていく必要があります。具体的には以下のようなことに気を付けながら探鳥会を運営していこうと思っています。

〇初めての参加者には、さりげない話しかけ

〇たまに参加される会員には、近況を意識した話しかけの実施

〇野鳥だけでなく、野草、樹木、実の話を

ここであえて、「さりげない話しかけ」としたのは、４年前に会員だった人が他県に移転して、その県の探鳥会に何回か参加したとき、しつっこく入会を迫られて嫌になった話を聞いたからです。大変難しいことですが、しっかりとお誘いをするものの、その人が自然に「入会したい」と思ってくれるまで待つという姿勢も大切だと感じています。

▲探鳥会のご案内

（日本野鳥の会富山／藤島光俊）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 10 月分）

10 月は 69 支部からご報告をいただき、計 261 回の探鳥会が開催され、のべ 5,976 人が参加されました。

表 2. 9 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 11 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	34	12	2	48
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	19	0	1	20
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	82	17	11	110
小樽支部	2	9	8	2	19
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	2	16	10	6	32
函館支部	1	1	0	1	2
道南桧山	2	16	28	7	51
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	10	0	2	12
秋田県支部	4	52	3	4	59
山形県支部	2	12	4	4	20
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	18	7	7	32
北上支部	1	7	0	1	8
宮城県支部	2	35	4	5	44
ふくしま	2	38	0	5	43
郡山支部	2	29	0	6	35
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	0	0	5	5
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	16	0	1	17
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	79	52	12	143
栃木	−	−	−	−	−
群馬	7	54	28	23	105
吾妻	1	12	1	2	15
埼玉	7	189	56	47	292
千葉県	8	130	31	28	189
東京	14	558	11	80	649
奥多摩支部	17	220	60	55	335
神奈川支部	10	145	30	39	214
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	65	11	3	79
石川	2	33	5	5	43
福井県	1	13	3	2	18
長野支部	3	43	2	5	50
軽井沢支部	1	12	5	1	18
諏訪	1	7	10	2	19
木曽支部	1	7	5	1	13
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	42	1	4	47
富士山麓支部	1	9	0	2	11
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	20	2	2	24
南富士支部	2	45	7	3	55
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	4	41	2	9	52
遠江	2	39	9	7	55
愛知県支部	15	166	104	43	313
岐阜	-	-	-	-	-
三重	3	15	14	5	34
奈良支部	4	124	28	8	160
和歌山県支部	1	4	5	4	13
滋賀	5	31	23	10	64
京都支部	7	112	23	25	160
大阪支部	22	410	89	107	606
ひょうご	10	165	87	25	277
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	22	5	3	30
島根県支部	1	10	0	1	11
岡山県支部	8	136	34	30	200
広島県支部	2	12	37	5	54
山口県支部	4	24	41	5	70
香川県支部	2	58	15	2	75
徳島県支部	5	55	12	5	72
高知支部	3	40	85	3	128
愛媛	6	57	33	9	99
北九州	3	33	0	3	36
福岡支部	6	124	17	12	153
筑豊支部	4	34	7	4	45
筑後支部	4	26	17	4	47
佐賀県支部	2	36	7	2	45
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	27	6	3	36
大分県支部	1	14	5	1	20
宮崎県支部	2	27	72	4	103
鹿児島	3	63	50	10	123
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	1	7	0	1	8
西表支部	-	-	-	-	-
全国	261	3,998	1,240	738	5,976

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇分布図で旅鳥を示せるか？

アジアで初めて野鳥の種ごとの分布図を示し、『フィールドガイド日本の野鳥』は国際的な評価も得ました。今日では、世界の分布図を示す図鑑も発行されるようになりましたが、野外に携帯しやすいサイズで世界規模の地図を用いると、日本が小さくなってしまいます。そのため、新版に至るまで東アジア中心の分布図を踏襲し、日本国内の分布の違いもわかるように努めていること、また、高野による解説の優れた点として種の前に科の解説があり、そこで世界の分布にも触れていることは、この連載で触れてきました（2014 年９月号）

そこでは、島の分布にもできる限り配慮した例として、五島列島のシジュウカラについて紹介しましたが、今回は、佐渡島のアオジについての裏話しを書かせてください。

まず、分布図での示し方についてですが、高野は春夏の繁殖地、秋冬の越冬地、周年見られる地域を３色で分けました。渡りで通過する地域まで着色した図鑑も発行されましたが、今のところ、それに追従しようとは考えていません。どの鳥が、どこをどう移動しているのか？については限られたデータしかないし、短期的にしか見られない、少数しか見られないところまですべてわかっているわけではありません。多くを示そうとすればするほどわかりにくくなってしまう側面もあるので、通過する地域については、「ここで繁殖し、ここで冬を越しているなら、渡りの時期にはここを通っているはず」と、図鑑を使う方ご自身が考えていただくのがよいと、現時点では考えています。

◇佐渡のアオジは旅鳥？夏鳥？留鳥？

新版編纂のために島の分布を調べていて、佐渡島のアオジについては悩みました。佐渡島の分布は、日本野鳥の会佐渡支部が 2004 年発行した『佐渡島鳥類目録』（新版の P355 に参考文献として記載）に準拠させることを基本方針にしましたが、そこでは、アオジは旅鳥とされていました。

「2003 年にさえずりが聞かれた」とも記されていましたが、その程度では繁殖地にはできません。ただ、「春の渡りの時期には個体数も多い」などの記述もあるし、私自身も佐渡でたくさんのアオジを見ています。佐渡にアオジがいないように誤解されるのは困るというか、忍びないというか・・・、しかし、旅鳥を分布図で表すとしたら、多くのシギ類やエゾビタキなども含めて考え直し、新たに統一した示し方を工夫をせねばなりません。一週間ほど考え続けて眠れない日々が続きましたが、「この本の使い方」P13 の分布図のところで、「旅鳥として通過する地域や、狭い地域・微小な記録は示していない」と書いてある前提を改められるような工夫は思いつかず、気持ちとしては許せないながらも、アオジの分布図では佐渡島に色を塗らないことにしました。

さて、日本野鳥の会佐渡支部は 60 周年を迎え、この 11 月に、新たに『佐渡島鳥類目録』を刊行されました。50 周年に続いて地元の目録に取り組まれたことに、敬意を表したいと思います。が、新目録ではアオジは「旅鳥」でなく「夏鳥」とされていたほか、「数は少ないが、越冬する個体もいる」とも記されていたので、再び頭を抱えてしまった次第です。一読者としては観察が進み、微妙なカテゴリー分けで見解が変わったと解釈すればよいのですが、支部の皆様が観察された結果を『フィールドガイド日本の野鳥』にできるだけ反映させたい私にとっては、再び悩みを背負ったことになるのです。

普通に繁殖しているなら繁殖地、普通に越冬するなら越冬地として着色すべきですが、どうもそこまでではなさそうです。ただ、2004 年発行の旧目録でアオジの月ごとの観察記録を見ると 3～5 月と 10～12 月だったのが、2015 年発行の新目録では 1～12 月まで見られるようになっており、周年見られる地域としたほうがよいのかも知れません。一方、新版の２刷りの段階で、参考文献を変えて分布図を直してもよいものか・・・・、実は、似たような課題は毎日のように、さまざまな情報から次々発生しています。供に悩みながら編纂をしてきた渡部良樹さんや田仲謙介さんらにも意見を聞きながら、総合的な検討を要すると考えているところです。

この連載の読者の皆様であれば、既存のアオジの分布図で示されている「大陸で広く繁殖していること」「朝鮮半島から本州以南、中国南

部まで広く越冬していること」から、佐渡を通過するアオジが少なくないだろうと考えていただけるものと思うのですが、実情としては、目次に続く「この本の使い方」さえ読まずに意見や文句を言ってくる方が少なくないのです。

▲日本野鳥の会佐渡支部による２冊の『佐渡島鳥類目録』の表紙（左が旧、右が新）

◇ルリオハチクイか？ハリオハチクイか？

2012 年の日本鳥類目録改訂第７版発行後も、鳥学会誌や Strix などで新たな記録が発表され続けています。日本鳥学会誌 63 巻１号に掲載されたクロビタイハリオアマツバメの観察記録は昨年６月号で紹介しましたが、新版発行直後に出された Strix vol.31 には、中井節二氏らによる三重県におけるヤドリギツグミの越冬記録が掲載されました。新版では P330 で観察例としましたが、今後は「記録」とすべきでしょう。

同じく Strix vol.31 に掲載されたルリオハチクイ *Merops philippinus* の日本初記録についても、この機会に書いておきます。目録７版で変更された和名もあったので、新版では以前の和名も併記するよう努めました。例えば増補改訂版でオリイモズとしたモウコアカモズは、目録７版に準拠したわけですが、索引でオリイモズ（モウコアカモズ）と記して、オリイモズという和名からもモウコアカモズにコンタクトできるようにしました。

ルリオハチクイは目録７版には掲載されておらず、ハリオハチクイという和名で紹介されている図鑑が見られることから、ハチクイの類似種としてルリオハチクイ（ハリオハチクイ）と記すように考えていました。しかし、ルリオハチクイの日本初記録を書いた山本裕から「ハチクイ類には中央の尾羽が突出している種が複数あり、ハリオという名称を特定の種の和名に使うのは混乱を招き、併記はよくない」との意見があったので、ハリオの和名は出さずに、後に学名を記すようにしました（新版 P208）。

ついでながら、新版編纂時に「ハチクイは昔の記録しかないので、削除してよいのでは？」という意見もいただいたのですが、新版でルリオハチクイが紹介できたことから、削除しないでよかったと思っています。似たような意見として、「ハシブトゴイのような絶滅種でスペースを割くな」とも言われたこともあるのですが、この春、日本鳥学会誌 64 巻１号には、川上和人氏らによる「小笠原諸島母島におけるハシブトゴイの記録」が掲載されました。

（普及室／安西英明）

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 12 月号の電子メール版の購読者数は、先月から 6 名増えて 798 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 12 月号電子メール版の購読者数（2015 年 12 月 13 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	13
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	24	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	51	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	19	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	798

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

早いもので 2015 年も最後の月となりました。今年一年の探鳥会は如何でしたでしょうか？引き続き「会員を増やすための探鳥会」の開催、年明けには「リーダーズフォーラム」へのご参加をどうぞ宜しくお願い致します。

最後に、４月から編集に携わらせて頂きました「探鳥会スタッフ通信」ですが、お見苦しい点も多々あったかと思います。お詫びとともに、ご愛読への御礼を申し上げます。また、新年より宜しくお願い致します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 33 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015 年 12 月 17 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org